

月別アーカイブ【2010年12月】

除夜

2010年12月31日



午後10時過ぎ、FMわっしょいに電話出演。

内容は、除夜の鐘を撞く理由と今年の感想、来年の抱負などであったがパーソナリティのくまちゃんと楽しく過ごせた。

来年の抱負は、「夢と希望とえがおの年」になればとお話する。

その後は、除夜会、
そして除夜の鐘の準備で大忙しであったが、
大勢の方のお参りで寒さも吹っ飛んだ。
何よりも、子ども連れが多かったのが印象的であった。
昨年よりもずっと増えた感じた。

何事も「種まき」が大事。まちも種をまいていくことがしっかりしているところ、どこに巻くかがわかっているところは伸びている。

慌ただしい一年であったが、「これを今後の糧に必ずする。必ずしなければ、申し訳ない。」と一年の一番最後の日に心に刻む。

明日は大晦日

2010年12月30日

今年も慌ただしい年末。
あっという間に、明日は大晦日。

明日は、午後10時過ぎから、「FMわっしょい」に電話出演。

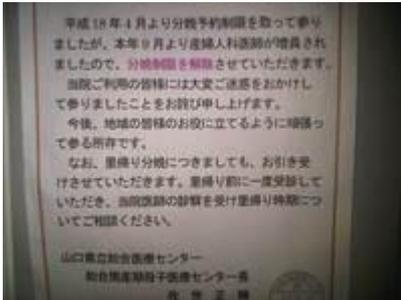
そして、11時過ぎから恒例の「除夜の鐘」をつく。

「除夜の鐘」を撞きたい方は防府市田島 南山手の善正寺までおいで下さい。

どなたも大歓迎です。

分娩日予約に関するお知らせ

2010年12月29日



午後8時過ぎ帰宅途中、孫が産まれそうだと連絡が入る。

病院に駆けつけると、すぐに分娩室から「オギャア、オギャア」の大きな泣き声。

予定日を過ぎお腹の中で大きくなっていたこともあり、三日前から入院。少し心配していたが、無事男子を出産。

我が家としては、初孫である。

ふと、壁に目を向けると、「分娩日予約に関するお知らせ」が貼ってある。

内容は平成18年4月より分娩予約制限をしていたが、医師の増員で今年9月より、分娩制限解除とのことである。里帰り出産もお受けするとのこと。

よく、県立総合医療センターの産婦人科のことが選挙のたびに話題になっていたが、やっと以前の形に戻った。

私自身、このことは聞き伝えの情報としては知っていたが、センター長名でしっかり張り出してある。

県と市がどのように周知したのかは定かではないが、良い情報は、市民に繰り返し知らせる必要があるのではと思う。

国道2号線・拡幅事業

2010年12月28日

きょうで、御用納めである。民間はそうはいかないところが多い。官庁も部署によっては、かえって忙しいところもある。

しかし、今年の防府市を見ていると、御用納めの雰囲気はなく、今日の天気のように疾風怒濤である。

私は「政治」でまちもよくなり、心も和めるものだと思っている。とすれば、今は政治が、安穏な暮らしを邪魔をしているのではないかとさえ感じる。

防府の暮れのニュースは連続して市議定数のことである。他市町からみれば、混乱状態と思われても仕方ない。

年末年始にかけて、ふるさとに帰省してくる防府出身者の思いはいかがなものか？

この混乱に終止符を打って、JT 撤退などの不安感を抱いている市民のために市は目を向けてほしい。

今朝、富海の方々から念願の周南市との境である椿峠、国道拡幅事業進展について、喜びの声を聞く。国と県がこの度一所懸命にやってくれて、やっとこの事業が動き出したとのこと。

「動き出したことが嬉しい。」と素直に言われる。

私は、長い間この件にこだわり、熱心な活動をされてきた地域住民の方々の力の結集がこの成果をみたのだと

思う。

民意、民意と言う方もおられるが、これこそ真の民意が官を動かしたということである。

「ハートライン山口」&「安心ふるさとサポート山口」

2010年12月27日

「NPO法人安心ふるさとサポート山口」のチャリティーコンサートがあった。

犯罪被害者を支援する「ハートライン山口」のアピールも兼ねていたが、

山口県出身者に対して、山口県内居住のご家族（主に高齢者、障害者）への日常生活のフォロー、サービス等の斡旋、代行等に関する事業を行い、ご家族と離れて暮らす山口県出身者をサポートするNPO法人である「安心ふるさとサポート山口」の設立記念である。

東京、大阪など県外に出ていて、ふるさと防府に、年老いた父母を残していれば、やはり不安で気にかかるであろうし、そこを支援しようとするのは、これまでは誰も気がつかなかったサポート目線である。

官の目線ではない。民の目線である。むしろ暮らし、生活の目線である。

しかも、公的資金ではなく、低額に抑えた負担金と寄付金で運営しようとする取り組みである。

何かあれば公的資金に頼ることが基本にあったこの国の流れを根底から見直す一つのきっかけとなるのではないかと直感する。

まちづくりは、具体的に動かなければ何も変わらないと再確認。

寄付金は年間一口2,000円である。

詳細はURL: <http://www.afss-yamaguchi.com> をご覧になってください。

コンサートは山口県出身者のボランティアによるものであった。

発破技師

2010年12月26日

熊本から来られた方が、かつて「発破技師」を目指していたことを話される。

おじさんが、九州や山口県内のトンネルで活躍された発破技師であり、その技術を教えてやると言われ育ってきたそうだ。

ただ、黒四ダムの工事で水が噴き出て、発破技師の仕事はなくなると思い道を変えたとのこと。そういえば「黒部の太陽」という映画で水との壮絶な戦いぶりが描かれていたのを思い出す。

「予想通り、発破に限界を感じた業界は技術革新を進め、シールド工法へと移り、仕事はなくなっていった。かつては重宝がられていた発破技師の仕事だったが。」と言われる。

日本はその優秀な技術を伝えられなくなっていることも嘆いておられた。

きょうは、そのおじさんのご法事。初めて故人の人となりを知ることができた。

寡黙な方であった。技術革新により、伝えることができなくなった技術、大変な努力と修練で獲得したものが必要とされなくなっていった寂しさもその寡黙さの中にあっただけであろう。

社会と個人の接点は本当に難しい問題を抱えている。

これからは、さらにスピードをあげて、社会が変化していくことだろう。

企業も同じである。

「20年後に生き残っている会社」という週刊誌の見出しがあったが、これも予想以上にテンポアップしていくことだろう。

少なくとも、10年後、20年後を見据えて、この地域を考えていくことが問われていると私は思う。

タクシー

2010年12月25日

昨夜帰りのタクシーの運転手さんは、面白かった。

面白かったというより、為になった。

「防府は活気がない。」と、ぼやきながらも、今、タクシーの一番忙しい時は朝。

病院に送るおじいちゃん、おばあちゃんとても忙しいらしい。

バスは使わないそうだ。防府駅で一度降車して、乗り換えていくにはお年寄りには厳しいものがある。バスは使いつらいのだ。

でも、夜はさっぱりとのこと。

「何とかならんかね。防府も特別悪いが、国の予算は何とかならんかね。」

今朝の新聞には、過去最大の92兆4116億円。公共事業は、相当カットしているが、過去最大の予算。

運転手さんが言うには「ばらまき型が悪いんよね。景気がよくなるようには、なっていないもの。」

景気も良くなならない、暮らしも良くななくて、借金が増える。これが政治主導の政治なのか。

地方の景気を一番敏感に感じ取っている「現場」の声である。

板門店

2010年12月24日

韓国と北朝鮮の間が、きな臭い。実際に撃ち合いがあり、韓国では死者も出ているというのだから、国民感情としてもたまったものではないだろう。

昨日の韓国軍の実弾訓練のテレビニュースは、対岸の火事とは思えない。

このような報道がなされると、かつて「板門店」に行った記憶がいつもよみがえる。

ソウルからバスに揺られ、ほぼ一日かけての38度線、板門店へのトリップである。

途中米軍基地で食事とトイレ休憩。今でも覚えているのは、男子用小用トイレの便器の高さの違いであった。失礼な言い方になるが、足の長さの違いであろう、ほとんどの日本人は上から下ではなく、下から上に向けて用を足さないと便器に入らないのである。

苦笑が残る記憶だが、米軍基地を通りすぎてから、雰囲気はガラッと変わった。何回か検問、パスポートの確認があったが、米軍と韓国軍のチェックはまるで違うのだ。韓国軍は目がマジなのである。38度線に近づくにつれ、緊迫の度合いは増していった。

板門店につくと、目の前に北朝鮮の兵士がいる。こちらをじっと見ている。捕虜の交換があったり、両国の重要な会議の場である。会議室の中に入ると、真中に38度線が引かれてあったのだが、知らず知らずのうちに超えそうになった。

極度の緊張状態にある両国、板門店はいまどんな風景なのだろうか。

国と国が対峙している厳しさを実感した板門店である。

老人ホーム訪問

2010年12月23日



特別養護老人ホーム「岸津園」訪問。防府南ロータリークラブと誠英高校の生徒が一緒になって「もちつき」をするためである。

途中より、入所者の方々が元気のよいもちつきを見て喜ばれる。

NHKの取材もあり、なぜか大盛り上がり。

ブログにも何回か書いたが、私自身12月に入り4回目のもちつきである。

ただ、きょうのブログはもちつきのことではなく、老人ホームのことである。

山口市は高齢者50人に対し一つベッドがある。防府市は高齢者70～80人に対しベッドが一つである。

これは国策にもよるとは思うが、ただ隣の市と比べこの格差はいかがなものか？

ただ、意外に防府の人はこのことを知らない。

身近な方が、老人ホームを必要として初めてその実態に気づく。やはり、セーフティネットを単独市制でも築き上げてこそ、その意味がある。

筋金入り

2010年12月22日

毎年、12月にお伺いしている集会。

87才、元自衛官のおじい様に、ほめられる。

「あんだ、元気になったの。筋金入りのシャンとした身体になった。」

大声で話していると、突然そう言われた。

そう言ったおじい様も背筋をシャンとのばされて「筋金入り」。

午前中の会議。私の同級生から「子どもがだんだん防府から離れて行きよる。働くところがないから、九州や山陰とあちこち、動く。働く場所が防府だけ少ないのか？」と疑問をぶつけられる。

この最近、雇用の問題が圧倒的に多い。日本全体がよくないので、防府だけとは思いたくはないが、雇用問題に向けての具体的な動きが見えないのは、確かである。

防府市長問責決議

2010年12月21日

昨年の災害土砂処理3億円随意契約の件で、1955年以来初めての問責決議が可決されたとの報道。

あまりにも突然のことであり、驚いてニュースを見た。

たしかに、すでに土砂処理は終了していなければならないのだが、まだ終わっていない。

「災害の処理に先頭を切るため」が市長4選出馬の最初の理由であった。

先頭を切るとはどういう意味であったのか。民間でこのようなことになれば、すでに「倒産」である。

問責決議ということで、あらためて市政の姿勢を考えることができた。

ニュースの中で、「市議会議員定数半減の意趣返し」と市長は発言されていたが、ことの本質のすり替えである。

再度言う。私自身は、なぜ防府市ではなくて山口市の業者に3億円もの高額な随意契約をなされたか、そこが問題の原点だと市長選の時に訴え続け、今もそう考えている。

合わせて、退職金ゼロ、給与半減も公約だった。

そのどれもが、いまだに実施されていない。

国会であれば連日ワイドショーということになるが、防府の場合はどうだろうか？

せめて、市議会議員半減だけをとりあげずに、そのすべてについて公平的確な報道がなされる必要はあるのではないか。

地方が地方として、闊達に生きていくには、情報の共有、オープン化がなされないと、その未来はこないのである。

山口ケーブルテレビ

2010年12月20日

山口ケーブルテレビ(12ch)の番組、「ソレーネ！」に出演。

というよりも、「三田尻・中関さんぽ大学」第1回目の取材からである。

「防府市でまちづくり教室開講」というタイトルで、社会福祉法人とNPOが協働してまちづくりを「考える」を放映していただいた。

放送日は今日(20日)と明日(21日)、午後5時30分、9時、11時の1日3回である。

物事のテンポは一段と速くなっているが、昔のことから現代を見る視点は大事にしたい。

お時間があれば、ぜひケーブルテレビを見てください。私の「まち」への思いがわかっていただける、いい編集でした。

政界に人材がない

2010年12月19日



朝のテレビのコメンテーターが「政界に人材がない。経済界やほかの所に行っている。」

政治家になるには、選挙がある。当たり前のことだ。理想を述べても、信条を訴えても、当選しないと意味がないといわれる。

むしろ、「分かりやすい、興味を引き付けるキーワード」が大事という昨今の選挙常識である。しかし、郵政選挙以来、たった一言のキーワード選挙をし

てきたツケがやってきていることに気がつかなくては。昨年の「子ども手当、高速道路無料化」選挙もいまやガタガタである。

「選挙がまちをよくするためのもの」という認識、民意が醸成されていないから、その根本が大事にされていないから、選挙に関心がない人も増えてくる。

「まちをもっとよくしたい」「暮らしを少しでもよくしたい」そう思う、そのために動く人材がいないとコメンテーターはいいかかったのだろう。

今一度「まちをよくしたい」との原点を考えさせられた一言であった。

夜は地域の方々の懇談。

奥様方手作り料理の連続に感動。和気あいあいとした雰囲気ですっかり心がなごむ。

何よりも感動したのは「ちしゃもみ」。

何年ぶりだろうか？幼い時の思い出がよみがえる様な料理に心温まる本当に贅沢な時間を過ごさせていただいた。感謝。

「もちつき」を必須科目に！

2010年12月18日



保育園のもちつき。保護者やOB、地域の方のご協力を得るからできることだ。

とりわけ数年前から、台唐(だいがら)という日本の伝統的な道具(てこの原理を使い足ふみ式でもちなどをつく)の実演もある。子どもたちも台に乗せてもらい足を添えて台唐の感触を楽しんだ。

「大きくなったら、台唐をついたことがあることを自慢できるいのう」「わしら、子どもたちが喜ぶ顔を見るだけでええ」

お手伝いにこられた地域の方から、逆にありがたい言葉を頂戴する。

「もちつき」は日本の大切な伝統的行事だ。早朝から、薪を焚き、火加減、湯加減を見ながら蒸し器の準備。臼を温め、杵を水につける。

それだけではない、前日までの諸準備、もち米を水にかし、薪を用意し、人手も集めなくてはならない。

つくときには、臼どりにつき手の絶妙なバランスがなければ、いい餅にはならない。つきあがると、等分に手で切り分けていき、大勢で、形にしていく。

「ここで提言である。」

防府市、山口県は「もちつき」を必須科目にすること。一人ひとりが「もちつきマスター」なんて発想はいかがだろうか。

今の大学を卒業したからといって、これだけのことはやれないであろう。「もちつき」全体を経験することで、文部

科学省ふうにいえば「生きる力」を身につけることができると思うのだ。
ただ杵でつくだけではなく、「もちつき」すべての段取りができれば、人間関係、物理、数学、農業、体力、手工芸など、人生の土壌を豊かにするすべてが入っている。しかも、頭の回転数も自然にあがる。

こんな素敵な学びの文化があることを私たちは見直さなければならない。
難しい理論を言うよりも、日本は「もちつきに帰れ！」と大声で叫びたい。

小1、35人学級へ

2010年12月17日

来年度から小学1年生、35人学級が国の制度として認められるという。
山口県では、すでに数年前から実施している。

しかし、教育基本法には学校という枠組みで幼稚園も組み込まれている。
その幼稚園は、いまだに1クラス35人学級が基本なのだ。

おかしいと思いませんか？幼稚園と小学1年生が同じクラス人数ということ。

当然、心ある幼稚園経営者は、一クラス35人では、良い保育、教育の質を高めることはできないことを知っており、少人数クラスの編成をし、自助努力で子どもたちの成長を支えている。

この度の小1、35人学級のため、50億円国は用意するという。やっとな、教育の質に気がついてくれたことは嬉しいが、民間、私立の幼稚園は、我が身を削るようにして、幼児教育の質を高めることをしてきたことは、少しでも多くの方々に知ってほしい。

国、いや現政権は事業の仕分けを、お金だけと考えているようだが、本当にこれからの我が国のことを考えるならば、人材の適材適所も視野に入れないと、真の改革は不可能である。

地方も、人材を大事にする政策が打ちたてられる能力が問われている。

地の利

2010年12月16日

干拓で広い平野ができ、かつて交易や製塩業で栄えた防府。

その製塩業が下火になり、廃止となったとき当時の防府の人たちは、どんな思いで受け止めたであろうか？

しかし、鐘紡、協和などの工場と共に発展し、塩田跡地には、東海カーボン、ブリヂストン、工場団地、そしてマツダと広がっていくとは誰も夢にも思っていなかったはず。

その時その時の工場誘致にあたった県や市のトップの街にかける情熱は官民一体となった素晴らしい姿が成果を見たのであろう。マツダ誘致に全力を尽くされた当時の鈴木防府市長のことは以前ブログに書いたのだが。

昨日の「三田尻・中関さんぽ大学」でのことだが、「防府には地の利がある」「外から見ている方が防府のことはよくわかるんじゃない？」と、ある准教授が話してくれた。

きょう、お母さん方の集まりで、ネガティブにとらえるだけでなく、先が見える話も大事と伝えた。何よりも私自身が「防府の地の利」に夢が広がった。私は、これからこの思いをしっかりと伝えていく。

すごい授業

2010年12月15日



「三田尻・中関さんぽ大学」第1回の講義。一言でいえば「すごい授業」であった。

建築家でもある山口大学内田教授は、まちを耕す、発想、視点を変える事の意味を、90分間しっかりと話された。

「耕す」いい言葉だと思う。

「急にはまちは変えられないのだからゆっくりと耕す気持ちが大事。原風景はどうであったのか考える。もうかつてのバブルのような世界はこないのだから。建築から減築へ。減築することも、建築業界には仕事となるはず。原風景に沿って、建物を減らす考えでものを見ると、新たな発想が湧く。」少し表現は違うが、今までとは違う視点で物事を見ることを、事例や例えを入れてわかりやすく伝えていただいた。

「海から防府を見る」いい発想だとも話された。

受講の一人から、「向島があって、海からでは防府の市街地は見えない。向島を過ぎて、港に入ってくるとパッと市街地が目飛び込んでくる。こんなに感動的な港はない。」と船の関係者の印象を紹介される。

まだまだ多くの街へのヒントを頂戴した。私の今後の考えに大きく影響した授業であった。いずれ、ブログか何かでお知らせしたい。

先生と受講の方々に感謝。次回は、平成23年1月24日。山口大学辰巳佳寿子准教授の話である。どうぞ入学お待ちしております。

「海北園」園葬

2010年12月14日

児童養護施設、海北園岩城満前園長の園葬に出席。

経歴や今後のビジョンをあらためてお伺いし、本当に残念な思いが再度募った。

ご家族、ご親戚、園関係、地域の方々の思いはもっと残念さがあるとは思っているのだが…しかし、防府にとっても山口県にとっても損失は大きいことを実感する。

話は変わるが、早朝挨拶をしていると、「昨日は朝、おらんかったね。」と声をかけられる。日曜日の最終便で東京に行き、月曜日の午前、霞が関、内閣府で会議があったことを伝える。

そんなことをしているのかという感じで驚かれた様子だったが、昨日は、随分と内容の濃い会議であった。

東京大学の秋田教授や大妻女子大学大場学長のフォローもあり、新しいシステムでの子どもたちの福祉、教育を目指す上で、重要なポイントになる会議であった。

そのことがあったので、あらためてということなのである。

昨日の会議の内容と、今日の園葬でのことが重なり、福祉のエキスパートを失ったことの大きさ、無念さを痛感する。ここ数年、福祉を通じて、いろいろなお話ができるようになっただけに惜しいと思うのだ。

地方こそ、現場を踏んだエキスパートがほしいのである。地方にこそ現場を踏んだエキスパートが存在する。地方から変えていかなければ変わらない。

教育、福祉が国の基本政策になることを願い、地方から変えていく気概が絶対必要な時である。

かたや、雇用の増大が叫ばれている。経済が厳しいのだ。

「正直にやっていたら、生活できたのがこの日本。私は子どもにそう教えてきた。その子どもが就職にあえいでいる。今のこの国は、正直にやっていたら暮らしていけない。私は子どもに申し訳ないと思っているんですよ。」

東京でのタクシードライバーの声である。

少しでも防府を良くしたい、まちをようしたいと考える人が増えなければ、まちは変わらない。

「三田尻・中関”さんぽ大学”」開校のお知らせ

2010年12月13日

「三田尻・中関”さんぽ大学”」を開催することにしました。

趣旨は、

社会福祉法人きんこう保育園とNPO法人ぼうぼうネットが連携して、

今回は「海からみたまちづくりを考える」をテーマにした産官学民の共同作業による学びの会です。

もとより、きんこう保育園では地域との連携を目指し、この秋には「子育て・孫育てフォーラム」を開催。昨年は7、21豪雨災害の直後から、8月いっぱいホールを開放し、被災された親子を中心に遊びの場づくりで受け入れを実施。また、ほぼ十年近く毎週土曜日午前「おもちゃライブラリー」を開館し、地域との連携をはかってきました。

詳細は、<http://www.boubounet.jp/sanpo/>に侵入してみてください。

ちなみに、1回目は12月15日(水)午後7時から9時まで。

講師は山口大学 工学部感性デザイン工学科空間デザイン学教授

内田文雄先生です。

政治的活動とは、一線を画し、防府の未来、まちづくりのヒントを探ることが目的です。会場の都合もあり、参加人数には制限がありますが、興味のある方は、島田のりあきまでご連絡ください。

お母さん塾

2010年12月12日

お母さん塾の方々の話を聞く。子どもたちの未来のために、懸命にがんばっている姿がすごい。

結成して10年。その活動をコンパクトにまとめたDVDも拝見する。

最初の活動は、ゴミ拾い。海、河口のゴミ。いくら拾ってもなくなる。ふるさとを何とかしたくて、ファミリーでゴミ拾い。とうとう河口から佐波川をさかのぼり、源流まで訪ねた。3歳の子どもも一緒に大変だったことを懐かしげに話される。

思いは、海外、カンボジアに飛び、子どもたちの学校設備充実のため活動を広げる。実際に何度も現地に行き、素敵な交流をした後も、最後はゴミ拾い。その行動力が何ともすごいのだ。

カンボジアに行くと、子どもたちが勉強をしたくてたまらない気持ちが伝わってくる。その目の輝きが今の日本の子どもたちと違う。

活動の幅広さに感動していると、

「私たちにできることをするだけ」と、サラッといわれる。

「経済的に貧しい国の貧しさ」と「経済的に豊かな国の貧しさ」

日本の教育、子育てはここから考えないと変わらないのではないかとキツパリ。

最終便で、昨週と同じように東京へ。明日は午前、霞ヶ関、内閣府での子ども・子育て新システムのワーキングチームに出席するためだ。

でも、きょうのお母さん塾の方々の活動を聞くと、その思い、願いとはかけ離れたところでの会議になっているような気がしてならない。

若干のむなしさを覚えつつも、防府には素晴らしい人たちがいることを支えに、

「地方の現状を伝え、地方の現場から、日本を変える」それが自分の役目と心に言い聞かせる。

「負けられません、勝つまでは」の意気込みで、「明日もがんばるぞ！」

たきび

2010年12月11日



「かきねのかきねのまがりかど たきびだたきびだ おちばたき あたろう
かあたろうよ きたかぜぴいぶうふいている」

日本の童謡の中でも有名な歌だ。

きょう、保育園の音楽会。最後に私がピアノ伴奏をして、年長組さんと保護者の方々と一緒に歌う。

障害のある子どもも、お友達と一緒に舞台に立ってくれた。年長組だから最後の音楽会である。みんなが感動のうちに無事音楽会を終えることができた。

実は昨日の練習のときである。子どもたちに「たきびをしたことがある？」と尋ねると、経験したことがある子どもが約2割であった。

少し驚いた。やはり、今は子どもの生活経験が圧倒的に少ないのである。昔、当たり前のように経験していた生活・暮らしの中のことが伝えられにくくなっている。

「教育」への課題が大きい。政治・行政の見通しの甘さが、「ゆとり」的教育を導入し、社会の変化のスピードの速さについていけず、生きていく経験のないまま社会人として放り出される。

最先端の工場に入社してくる新人が、かなづち、のこぎりの経験がなく、指導するほうも大変という。厳しく言うと、先輩社員の指導の仕方が指導されるという変な社会である。昨夕、お話しした方が、そのことを嘆いておられた。その新人が悪いのではない。教育されずに、教えられずに大人になるということは日本の将来を危うくすると心配されていたがその通りである。

この負の連鎖をどこかで断ち切らねば、特に地方における「教育」の課題はとても大きいのだ。

発想の転換。たとえば東京マラソン

2010年12月10日

東京マラソン、寄付者参加枠のニュース。10万円以上寄付者先着1,000名に参加枠を設けるというもの。まさに発想の転換である。10万円以上1,000名ということは、1億円以上ということになる。

このニュースを聞いて市議員定数半減で1億円捻出したいという発想は、やはりあまりにもさみすぎる。大都市東京が、削減、マイナス思考の発想ではなく、まだ稼げるところで稼ぐ、収入を図る努力をしているのだ。

これを山口県にたとえれば、来年の山口国体。1000円寄付すると「ちよるの携帯クリナー」をもらえるが、大口寄付者には、開会式優先入場券、あるいは全競技優先無料入場券などのインセンティブをはかり、寄付を募

ったらどうだろうか。

以前とは違い国体予算も厳しくなっていることは、容易に想像できる。
国体だからそのようなことは実際無理なのかもしれないが、何か発想の転換が求められている気がする。
実は、早朝、お話をしに訪れた大先輩からこの発想を聞いたのである。

年齢は重ねて、体力の衰えを嘆かれていたが、頭の回転数は落ちていない。新たな発想を常に考えられている。
だから、会社も順調なのだろう。

市も県も国も発想の大転換が求められている。
知恵をだす時代なのだ。

華城村模範村表彰

2010年12月9日

明治44年ころの華城村だった時代、模範村として表彰された話を聞くことができた。
70代後半のその方は、まだまだ意気軒昂で防府のことを案じておられた。
その中のことである。「確か明治44年ころ、華城村だった時に国から模範村表彰を受けた。理由は三つ。一つは犯罪が少なかった。二つ目は税金を滞納する人がいなかった。三つ目は、みんなが仲が良かった。」その3点で全国表彰を受けたとのこと。

二つ目の税金については村長さんが、全部立て替えていたそうである。「昔の政治家は、私利私欲で動くことはなかった。まして名誉欲でもなかった。村のために、良くなるように一心で動いていた。今は公職選挙法があり制度上立て替えはできないが、その心意気が大事。」

今日の風は、随分冷たかったが、背筋をシャンとのばして思いを私に伝えて下さった。
話が終わるころ「ところで、防府に新幹線駅を造るということで、毎年何億か積み立てていた基金がある。それは今どうなっているか、わからんかのう？」

「100億が目標だったので、数十億位はたまっているはず。ソルトアリーナの建設費ぐらいはどうかなと思うのだが。」

財政についても、まだまだ私の知らないことがたくさんあることを、あらためて実感する。

食の本当の豊かさとは？

2010年12月8日

食品ジャーナリスト安部 司先生の講演を聴く機会を頂戴する。

「食の本当の豊かさとは？」という演題であったが、私自身、日本スローフード協会設立時の理事であり、地産地消が言われる前から、食の安全にはひときわこだわっていたこともあり、とても興味を持っていた分野である。

「添加物が入るから安い。たとえばジュース。果汁100%と果汁1%では違うもの。本物ではない、添加物で作られた偽物を買っていることになるから、安いものを高く買っていることになる。」

なるほどである。添加物入りは安い単価で製造できるから、本物と比べてはいけないということなのである。

「高い安いではない。本物を買うか、偽物を買うか？の選択」この言い回しは分かりやすかった。

「学校給食も、一食30円プラスで、地産地消が可能」

このことは、ショックであった。具体的な数字をあげて、地産地消給食に触れた話は初めて出会った。

子ども手当も必要な部分はあるが、この一点にしぼって、学校給食を変えれば、子どもたちの発育にも効果があろうし、地域の農業漁業の育成発展につながるのではないか。添加物で、アレルギーになり、食を整えることで荒れた学校が変わったとのデータもあるようだ。

そして、何よりも、このような循環型、成長戦略を持った仕組みを考えていくことが、政治や行政の仕事なのである。

創造性があれば、まだまだ地方も国もチャンスはあるとあらためて実感した日であった。

ご案内をいただいたことに感謝。

防府は良くなったか？

2010年12月7日

「防府市長選のあと、防府は良くなったのか？」

友人との会話の中である。

「一昨年リーマンショック、昨年豪雨による大水害。

いろいろな要因で景気は落ち込んだ。

そして今年こそと思っていたが、一向に景気は良くならない。

外的要因だけではない、何か根本的なところで違っている気がする。」

友人でもあり、一人の経営者の声でもある。

早朝、街頭で犬と散歩をしている方から声をかけていただく。

「寒くなったね。こないだの選挙は、残念じゃったね。」

顔をぐるぐる巻きにしていたマフラーをはずされ、しばし会話。よく聞くと何と私の家のすぐ近くで子ども時代を過

ごされたとのこと。

「また、応援するから、何でもがんばりいや。」

多くの方の声をしっかり聞いていくこと。まして、話しかけてもらえること、しっかり胸に刻み、前に。

寒さを忘れるひと時であった。

報恩感謝

2010年12月6日

昨日、最終便で東京へ。霞が関でワーキングチームの打ち合わせをし、午後一便で山口に。最近このパターンが多い。

宇部空港より、直行で「報恩感謝の会」忘年会に。素敵な名前がついた会でもあり、出席させていただいた。私より年上の方ばかりであったが、踊りあり、カラオケありのすごいパワーに圧倒される。

その会で、地元の恩師と出会い、家までお連れする。

「保育園の子どもたちの声がええんよ。つばえる声が心和む。子どもたちの声が聞こえる場所に家があってよかった。」と、しみり話される。

奥様を急になくされたあとも、地元のことを、地域の活動をされているのだが、心から思いを伝えてくださったことに感謝。

「地域にお年寄りの笑顔がある。」

やはり、そこをベースにしたセーフティネットを国県市は作らなければならない。今、求められているのは笑顔のあるまちづくりなのだ。

子育て支援・少子化対策は私の専門分野ではあるが、「お年寄りの笑顔があるまち」を目指すことで、根本的な解決に向かうことを実感した午前の会議でもあった。

「防府市選管」～来庁しなければ不利益～

2010年12月5日

昨日の朝刊に、とんでもない見出しが書いてあった。

「来庁しなければ不利益に 防府市選管 署名代筆者に文書」

記事は、防府市議会定数半減を直接請求するために市民団体が集めた署名を審査している市選管が、署名の代筆者に対し、来庁しないと「不利益になる場合がある」

と記した文書を送付していたという内容である。

市民に文書で「不利益になる」と送付する状況はいったい何なのか。納税義務を怠ったとかいうものとは、質が違う。署名代筆者にそのような文書を送付すること自体、公僕としての基本スタンスを欠いているのではないか。市民団体代表も「違和感を感じる」とのコメント。

なお、この件を取り上げたマスコミと取り上げなかったマスコミとがある。威圧感を感じる文言を市選管が実際になされたのであれば、大問題ではないか。ぜひ、今後、真相、顛末を報告してほしい。

防府市議会も、積極的な真相究明そして責任追及に取り組んでほしい。まさに市議会が問われていることだけに。

また、いまだに100条委員会の結果はどうなったのかと問われることが多い。合わせて、わかりやすく市民に報告されることを市民は望んでいる。

防府グリークラブ 第35回定期演奏会

2010年12月4日



午前中、幼稚園音楽会。保護者に内閣府での活動状況とこれからの幼児教育のスタイルについてお話する。マスコミにもしばしば取り上げられている件でもあり、よく聞いていただけた。

午後は、所属する「防府グリークラブ 第35回定期演奏会」だ。今回は、35回という節目でもあり、県内、周南市「メールソレイネ」「メンズコール光」「小野田グリークラブ」下関市の「コールばかんず」も友情出演。

合同演奏では100名を超える男声合唱がアスピラート音楽ホールに響き渡った。私自身何よりも、この合同演奏に参加したかったのだ。とりわけアンコールの「大地讃頌」(だいちさんしょう)が歌いたかったのだ。高校時代何度となく歌った曲であり、しかも音響の良さでは定評のあるアスピラート音楽ホールで、100名を超える男声合唱は、とてつもない響きと感動があることを確信していたからだ。

～母なる大地のふところに 我ら 人の子の 喜びはある 大地を愛せよ 大地に生きる人の子ら その立つ土に感謝せよ 平和な大地を 静かな大地を 大地をほめよ たたえよ土を ～ 佐藤 眞作曲 大木惇夫作詞

歌いながら涙をこらえるのに精一杯であった。歌っていて心が動いた。学生時代とはまた違った味わいの中でホールにこの歌が鳴り響いた。

打ち上げでの他団体指揮者の感想。

「こんな響きのよいホールで歌えて。いい音響ですね。」「私は今でも防府が山口県を中心であると思っている。」「新任時代防府で過ごす。裸坊に出てその思い出が忘れられない。」「防府グリーは無謀な冒険をする。この度の内容も体力的にも厳しかったと思う。しかし私が理科の教師をしているかもしれないが、蝶などが脱皮をするときは50、60%しか、蝶になれない。しかし無謀な無理をしても生きるためには必要なこと。その意気込みが防府グリーにはある。」

何か「防府」に対する提言のように聞こえてきた。「外から見た防府」の姿を防府の人、一人ひとりが学ぶべき時。

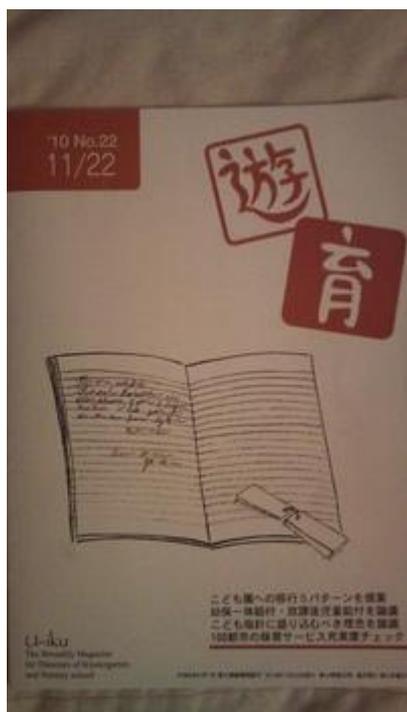
今日の写真は合同演奏。前列右から二人目が私。もう一つはロビーコールの様子。

打ち上げ後、ある忘年会に参加。隣のグループに同級生がいた。一緒になって大賑わい。お店を出ると、偶然にも、会いたかった高校の同級生と二十年ぶりにばったり。「のりあき！」と車の中から、懐かしい顔が。「選挙、残念じゃったの。また応援するからの！」

旧友は旧友である。出会いの多い一日。

子ども手当

2010年12月3日



その隣りの記事は「こども園 幼保と併存」幼稚園保育園すべてこども園に統合という方式は拙速という意見がワーキングチームで続出。当初案から後退である。しかも財源はこれから考えるということのようだ。

今朝の朝刊、「子ども手当 3歳未満児2万円合意」ただし、財源は結論出ず。

この二つの記事のポイントは両方とも「財源はない」ということと、3歳未満児に待機児童が集中している現状の打破、解消にはならないということなのである。

「遊育」11月22日号には、私の意見が掲載されている。

～「教育や社会福祉に関して、国家戦略がない。こういう社会をつくりたい、こういう人間を育てたいという大枠があって、そこからこども指針が導きだされるのではないか」と主張。「国には、これだけの財源を用意したから、新しいものを作り上げてもらいたいと言うくらいの意気込みがほしい」と指摘した。～

いみじくも、その指摘はあたっているように思う。政権交代の意味は、大胆に「暮らし一番」「生活一番」に制度を組み替えるチャンスであったように思う。

しかし、今までの枠組みにとらわれすぎると、単なる対症療法(待機児童対策・子育て支援対策)に終わり、成功しないのではとも会議では発言したのだが。

しっかりと現状認識とこうしたいという強い意志がないと「政治」は動かない、変わらないことを「体感」。

マツダ防府工場

2010年12月2日

昨日のFM放送出演時、国土交通省の方が、少雨の為、取水制限が強化されたことを、番組中にお知らせされていた。このままの少雨傾向が続けば、さらに取水制限が強化されるようである。

きょうは、午後から雨。朝のうちに、マツダ防府工場見学をすませることができたことは、ありがたかった。

思えば、マツダ防府工場を幼稚園保育園の子どもたちと見学するようになって何年になるだろう。十数年は経っていると思うのだが、地域にある持ち味をどれだけ子どもたちが育つ環境に取り入れられるかが、真のカリキュラムである。オリジナリティのある、個性豊かなオンリーワンのカリキュラムが造れることが本来大事なのだ。

そんな思いがあり、工場見学を続けているうちに、子どもたち用の階段手すり、説明する時の設備など、どんどん変化していただいた。時には、子どもが自分の父親を見つけ、喜ぶ姿も。きっと父の仕事を誇りに思ってくれることだろう。

地域の自然(山海川、田んぼなど)や最先端の技術を持つ工場やお店。みんなフルに影響し合って始めていいまちになる。

そういえば、東京スカイツリーが500Mの高さを超えたとニュースで。観光客が増え、地域の商店街もにぎやかに。初めは反対した方もいるようだが、「これからは共存共栄」と地元の方がニュースで張り切って話していた。「何か希望を感じるよね！」と若い世代も。

夢のある希望が持てる政策を、地方こそ打ち出していく時期だと実感。

「共存共栄」大事な言葉を防府は忘れていた気がする。

佐波川物語

2010年12月1日

「FMわっしょい」に出演。

午後7時からの、「佐波川物語」というタイトルで国土交通省がスポンサーである。

キャスターは山口大学、滝本准教授。

いつもながらの、巧みな入りは見事である。

最初は、私が出席している内閣府子育て関連のワーキングチームの様子を話しながら、人づくり、まちづくりに展開していく。

そして、佐波川のこと。先生は防災の専門家であるが、自然への造詣も深い。

私も「自然の豊かさ、子育て環境の良さは企業誘致の切り口になるのでは。佐波川は子どもたちも、水に親しめるよう環境整備が図られていること。きっと将来、この様な積み上げが防府で子育てをというPRの材料になるはず。」などと提言する。

最後に、「三田尻中関港の活性化」、「外から見た防府」、「海から見た防府」を勉強し、かつて、上関、中関、下関と言われた時代の華やかさを取り戻せればと思い、今後の活動の一つとしたい旨伝え放送を終える。

夕方、お電話でご挨拶をしていると「ブログ見てますよ。」とっていただく。ありがたいこと、心から感謝。